



TITLE:

2001年度基研研究会報告「Women in Physics準備調査研究」その後の経過

AUTHOR(S):

登谷, 美穂子

CITATION:

登谷, 美穂子. 2001年度基研研究会報告「Women in Physics準備調査研究」その後の経過. 物性研究 2003, 80(5): 700-700

ISSUE DATE:

2003-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/97589>

RIGHT:

研究報告

2001 年度 基研 研究会報告

「Women in Physics 準備調査研究」その後の経過

表記基研研究会報告は、2002 年 3 月 IUPAP 主催で開催された国際会議「Women in Physics」(通称、パリ国際会議)への日本物理学会からの参加に向けて、学会の女性物理学研究者の調査・分析・検討を行うために申請・認可された研究会の報告書である。この研究会の報告はすでに素粒子論研究¹⁾に掲載されているが、このほど物性分野の方からの要請があつて再録した。しかし、この研究会が開催されてからかなりの時間が経過しており、男女共同参画に関する物理学会でのその後の動きや、その他の学会での取り組みなどもあり、ここで簡単にそれを紹介しておきたい。

1. 国際会議「Women in Physics」(2002 年 3 月 7～9 日開催)

この国際会議には、世界各国から約 400 名の物理学研究者が参加し、研究・教育における男女共同参画のあり方について議論が交わされた。日本からは物理学会と応用物理学会が参加し、両学会の会員アンケート調査報告²⁾が坂東昌子氏(愛知大学)によってなされた。このような全会員の調査報告を行ったのは日本だけで、非常に好評だったと報告³⁾されている。会議録が HP⁴⁾に掲載されているので詳しくはそれをご覧いただきたい。

2. 「男女共同参画推進委員会」設置(2002 年 6 月)

物理学会では、2002 年 3 月の第 57 回年次大会でパリ会議の報告とアンケート分析結果の報告を行い、6 月に表記委員会を設置した。この委員会では、男女共同参画に向けて、育児支援や博士課程修了後の非常勤職員の研究環境に関する提言などが検討されている。

3. 「男女共同参画学協会 連絡会」の設置(2002 年 10 月)

科学技術分野における 32 の学協会が、男女共同参画に関する取り組みの連携・協力を行って、男女が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワークづくりを行うために表記連絡会を発足させ、物理学会も参加している。

4. 「研究者環境調査委員会」設置(2003 年 1 月)

物理学会に、アンケート調査のデータを使って男女物理学研究者の研究環境を調査する特別委員会が設置され、さまざまな角度からの検討が現在進められている。

2003 年 6 月 9 日

(文責 研究会世話人 登谷 美穂子)

¹⁾ 研究会報告 素粒子論研究 105 巻 5 号(2002)

²⁾ 分析結果報告 I - 女性物理学者の研究環境 日本物理学会誌 第 57 巻第 5 号(2002), pp. 345-347

分析結果報告 II - 家庭と仕事 日本物理学会誌 第 57 巻第 8 号(2002), pp. 600-602

分析結果報告 III - 女性物理学者の研究活動 日本物理学会誌 第 57 巻第 9 号(2002), pp. 673-675

報告 I-III の英語版: JPS Member Survey Analysis Report - Focused on Female Researchers も物理学会から刊行されている。

³⁾ 小舘 香椎子 「IUPAP International Conference on Women in Physics 報告」応用物理 第 71 巻第 7 号(2002), pp. 911-914

⁴⁾ <http://proceedings.aip.org/proceedings/confproceed/628.jsp>